クロモ シーリズ

特255
825

工藝常識講座

着物の流行と織物

鹿島英二

東京 三省堂 大阪

始

特255
825

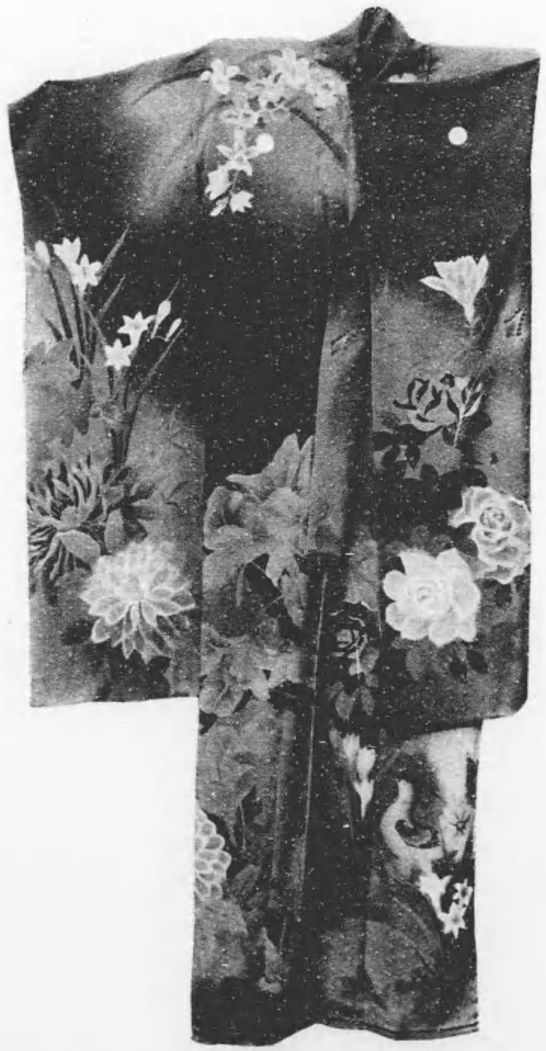
クロモシーリズ

工藝常識講座

着物の流行と織物

鹿島英二

東京 三省堂 大阪



京都友禪振袖模様

着物の流行と織物

目次

一　流行の起源……一
二　着物の流行と二つの「波」……二
三　現代流行規準の一「柔らか味をもつこと」……六
四　同　上の二「深味をもつこと」……一〇
五　同　上の三「遠目を利かせること」……一四
六　同　上の四「東洋味の豊かなること」……一七
七　同　上の五「ザングリした氣分をもつこと」……一八
八　同　上の六「氣品を持たせること」……二〇

九　流行につき六つの標語……二〇
一〇　各地製品の批判……二一
（イ）越後の明石縮、（ロ）伊勢崎銘仙、（ハ）豐田紬、（ニ）桐生の人絹帶、（ホ）所澤の木綿物、（ヘ）八王子の絹織物、（ト）青梅の夜具地、（チ）久留米絣、（リ）大島紬。
一一　優秀なる機業地たるべき特質……二五
一二　輸出織物製造の必要……二七
附錄　全國に於ける織物及染物の分布……二九

着物の流行と織物

東京高等工藝學校教授　鹿島英二

一　流行の起源

流行は國民思想の新らしい發表であると言ふて宜い。さうして着物の流行は、其思想が工藝化されたものゝ一つだと思ひます。其國民の思想と云ふものは、國々に依て必ずしも同じではない。或は日本の思想、或は歐米の思想、或は支那の思想と云ふ風に、色々違つて居りますが、何れも其風土、氣候、風俗、習慣と云ふやうなものから、それ自身の變遷に依つて、又は交通機關、通信機關、或は印刷出版と云ふやうなものから、世界の各國の思想が流れて來て、其流潮に伴れて、又種々な變遷が起る譯であるが、それ等の思想が外

へ現れて、新なる風俗、習慣等を造る。そして又政治、宗教、文學、美術と云ふやうなものになつて、初めて御互ひの目に現はれて參ります。そこで、着物の流行は其現はれて參つた所の有様を捉へて、それが影響して生れ來るものと、私は思ふのであります。私は玆で主に内地に於ける着物の流行に付き、其國民思想との一切の關係を述べて、次に產地の批判に移りたいと思ひます。

二　着物の流行と二つの波

凡そ流行には大きな波と、又小さな波とありまして、政治、宗教、又は風俗、習慣、或は文學、美術と云ふやうなものから、長年續いて自然的に流れて來た所の、所謂其根本思想に深い原因を置いて居る所のものは、それを大きな波と致します。單に一時的に起つた時事問題に依れる思想の變遷に依つて出來たもの、多くて一年位續く位の思想の變遷と云ふなうな、極く其時々の變遷から來たものは、小さな波と言ふて宜いと思ふのであり

ます。

例へば文展、今は帝展ですが、此帝展はもう餘り流行には影響しませぬが、文展の時代には、文展模様と云ふものは、非常に流行つたのであります。又或は飛行機とか、浮世繪とか云ふやうなものが、單に一時的の原因を爲すことがあります。角力が廢つて運動が盛んになると云ふと、或は運動模様と云ふやうなものが、特に出來るかも知れませぬ。昨秋は御大禮がありました。そこで夏から秋に掛けては、可成り影響を受けたと思ふのであります。小さな波が長く續くと、或は大きな波と變はることがあるのですが、先づ此根本思想に深い緣を持たないものは、餘りに長く繼續しないやうであります。例へば大震災のやうな、あゝ云ふ事件でも、相當長く續いて、大波になるかと思ふて居りましたのですけれども、割合に長く續かないで、單に一時的に止まつたやうに思ふのであります。

又東京などでは、各デパート、或は關西では問屋とかデパート等で、色々な標準になる所の色目とか、又は柄とか云ふやうなものゝ模範を其期節々々に能く示されますが、是は

洵に宜いことであります。機業家は其爲非常に仕合せで、迷はないで、詰り間違ひのない所の品物を良く造ることが出來るのです。此標準が皆一致しますれば、尙ほ仕合せなことであると思ひます。現在はないやうでありますが、元東京には之れを、一致させる爲に一の會が出來て居つたやうであります。何んとかして是非これを再興したい者であります。兎に角、其デパート、或は問屋などで、色々な色目とか、又は柄などを總て工夫されて、さうして發表になる、斯う云ふやうな定め方は、どう云ふことを基礎にしてやるか、皆色々に其方法が違つて居りまして、一定はしないでせうと思ひますが、或は昨年の末に或る新らしい色を出した所が、非常にそれが賣れが宜かつた、又は或る柄に於て非常にそれが賣れ行きが宜かつた、と云ふやうなことを基礎にし、或は特に新しい色、外國雜誌とか又は種々な自然物の花などから新らしく造るべき所の花を創造し、或はずつと前時代に流行した所の模樣を用ひて、さうして自分の特色のものとしやう、と云ふやうな風に種々に工夫をされてゐますが、若し其考へられた所の色なり、標準なりが大きな波に基くものでありましたならば、長く續くのでありますが、唯小さな波に基いて出來た者であつた時には、一時的に止まるやうであります。併し小さな波と云ひましても、商賣としては決して見遁すべからざることでありまして、能く之に注意して、それ〴〵必要な問題に副ふやうな色なり、或は柄なりを工夫することが必要であるのであります。併し餘り時事問題、小波に關係したものは、製作や仕入に當りて深入りをしますと、危ぶないことがありますので、其處は心掛けて置かなければならぬのですが、大體に其製作者、或はそれを取扱ふ者又は販賣に關係の者から言ひますと、先づ此大きな波を考へて基礎として、さうして單に眼先を變へる爲に、新規な意匠に關するものを入れると云ふことが宜いのであつて、需要者側、即ち其品物を買ふ方から言ひますると、此小さな波に依つて出來た品物を需むることは、私は餘りに推奬いたしませぬ。東京などでは、例へば、是が流行であると云ふても、自分の好みに合はぬ、或は自分の體にどうだらうかと云ふやうなものは、御客も餘り贊成しないと云ふやうなことを能く聞いて居ります。それは尤もなことであつて、成べく

ならば、自然の變化に基く大波に依る、流行製品を買ふ方が、安全ではないかと思ふのであります。

そこで、私は是から其大波に依る所の、流行の規準として差支ないと云ふやうなものを思想の關係から推して意見を申述べて見たいのであります。

三　現代流行規準の一「柔らか味を持つこと」

前に述べたやうに、流行の波は其思想の根本に觸れて起つて來るものであつて、政治、宗教、文學、美術等に現はれたものは何れ心に感じ眼に見えて來る、そこで其現はれた所のものを靜かに考へ、凝つと眺めて居りますと、自ら其規準として、差支ない所のものが現はれて來るのであります。例へば、昔のお巡りさんと、今のお巡りさんとは大分違ふ。何か道でも聞くと、「其處から右に曲つて行くんだ」或は「貴樣の來た方から彼方に往つて、さうして向ふへ往つて聞け」と云つたやうな、中々亂暴な言ひ方をした。けれども今日は

中々溫なしく出て、道を聞きましても、「そつちの方に往つて、向ふにポストがありますから、其處から這入つて聞きなすつたら宜いでしやう」と云ふやうな、極く溫なしい出方になつて居ります。即ち官僚主義と云ふやうなものは、餘りに用ひられず、平民主義を好むことになつた。私共の若い時分には、漢文が非常に流行りまして、總て紀行文や何かなどにしても、漢文で以て書かされた。次でそれが假名交りに變つて、大分樂になつて參りました。今日は口語體と云ふ譯になつて一層樂になり、式辭、祝文などでも、總て口語體でやることになつて來て居る有樣である。私は最近或る博覽會で出品物の審査を致しましたが、其報告書を成べく口語體で書いて呉れと云ふ註文が出ました。之は今迄になかつた事です。即ち世の中が四角張らないで、ずつと柔らかになつて參りました。それが、着物の色とか、或は縞柄と云ふやうなものと、非常に關係を持つて居るやうに、私は思ふのであります。乃ち氣分が柔らかになつて來た。

そこで之等の思想と棒縞との關係を考へて見ますとよく解るのですが、此處十年ばかり

前には、棒縞と云ふものは、唯幾本かの棒を几帳面に竝べたものが最初に出て來た。それから、其間に又細い線を入れる、或は同じ棒を距離を違へて現し、其側にもつと細い棒を成るたけ距離の變化をつけて出すと云ふ風に變つて來た。其次には唯の棒でなくつて、其棒が幾本かの小筋が集つた所の者になつて來た。其次には其棒の絣の小さな物で集めて作る、或は霰のやうな小さな點々で以て其棒を現はし、或は細かな模樣で一の棒の樣に見せると云ふ風に、段々に斯う柔らかになつて參りまして、終ひには一反の反物の中にどこも同じ所のないやうに、總ての幅の間に皆變化のある所の棒縞が出來て來る、と云ふやうなことにもなつて來まして、現在では單に棒では强過ぎるから、それに格子を切ると云ふやうなこと、格子でも同じやうな格子はいかぬから、所々霞のやうな具合に格子を置いて行く、さうやつて、段々に柔かく〳〵となつて來ました所、現在は又縱の棒ではいけないからして、横の方が宜い、横柄が宜いと云ふ譯で大分横柄の方が流行つて居ります。併し格子とか横柄とか云ふやうなものは、先づ何方かと言ひますと、夏に適當したものでありま

す。乃ち格子は、所謂體に橋を架けるやうな氣味の模樣であるからして、この模樣がありますると、汗をかいても體にピツタリ付かぬやうな意味になつて來る。模樣に依りましてさう云ふ感じや意味が起つて來るので、餘り冬物には應用しては宜くないのですが、單に棒縞を柔らかくする爲の計畫としては、冬にも矢張用ひられて居るのであります。かく横縞は大分使はれて居りますが、是も私は單に一時的なものと思ふのであります。乃ち從來多く棒縞を使用されましたからして、偶に眼先を變へる爲に、横縞が今日出來たのでせうが、大體に横縞と云ふものは、背の高い人には向きますが、背の低い人には宜くない筈のものである。唯長い間、斯樣に棒縞を使つた後には、背の低い人も背の高い人も、誰が着ても新らし味があつて面白く見えます。然し大體に日本人は背が低いから、先づ何方かと言へば、横段は日本人には適しない。で矢張棒縞の方が適當するやうに思ひますから、此横縞と云ふものは、詰り小さな波であらふと思ふのであります。

以上極く柔らか味を帶びた思想から、縞柄等に及んだことを申したのでありますが、色

合等の極く柔らかになつて居ることは、現在御覽の通りであります。

四　現代流行規準の二「深味を持つこと」

次に近頃、精神の修養、或は靈の研究、又は宗教の研究とか云ふことが行はれ、輕佻浮薄なることは甚だいかぬ。人間にも深みがなくちやいかぬ、底力がなくては駄目だと云ふやうな、偉いことを申出して來て居る世の中になつて來た。美術などにしましても、薄つぺらなものはいけない。繪にしましても、色には底光がなくてはいかぬ、奥行がなくてはいかぬなど、總て深みに關係した物を喜ぶことになつて來まして、着物にも勿論深味と云ふことを貴ぶやうになつて來ました。即ち色に極く深味のあるやうに、柄の變化などでも線の交錯を考へて、そしてそれが爲に、模樣に非常に深味が出るやうなことを工夫する。或は線と線と、或は面と線と云ふやうな風に、總てのものを斯う交へまして、總體に見た所が深く見えるやうな感じの出せるやうに進んで來て居ります。又色、柄の外に糸の關係

織方の組織の關係等も研究されて、常に深味を付ける樣になりました。大體着物に模樣を付けると云ふことは、單に裝飾の意味ばかりでもない樣でありまして、即ち日本の上古の時代に着て居つた所の着物の内、摺衣(すりころも)のやうに草の汁か何かを付けた時代、それが即ち日本では着物の模樣の起りでありますが、模樣も何もない或る平らかな所に草汁を摺り付けて、一つの模樣を付けたと云ふことは、其處へ或る突起したものを付けたと云ふことになりまして、それから漸次模樣が複雜になり、正面から見ると、それが色々な變化した所の色、或は線の交錯等に依つて、觸(さは)つて見ると平らかな所の一つの面を、見た目には非常な凸凹が付いて見え、さうしてそれに深さ厚さを付けたと云ふ、乃ち立體的の意味が附け加へられて來る。即ち着物は體を覆ふものであるからして暖味を付ける、薄い着物を着て居つてはいかぬから、少し厚味を見せる所の工夫から模樣と云ふものは出來たものと、私は思ふのであります。それで冬の物は、尙更深味が必要である譯です。

色合などにしましても、玆十四五年前迄は、大體に濃い暗い陰欝な方の色を多く使ひ、

其濃度に於ても狹い範圍でありました。乃ち地色も濃く暗く現はして模樣も餘り明るい色を使はなかつたが、それが段々明るい色を使ひ出して、濃い色と極明るい色と配合し、又は明るい色を地として、之に極濃い色を模樣とすると云ふ樣に、濃度の差が段々烈しくなつて來た。又此深味を付けると云ふ關係から、白を用ひ出したことに付、其順序を考へて見ると、そこに面白い歷史があると思ふのです。ズツト以前は、餘り白と云ふものを柄には使つてなかつた。僅かに色と色との境をする爲に、白い線を使つた位でありまして、明治四十年頃迄は、柄としては殆ど何處にも白と云ふものはなかつた。其頃のものを見ますと、例へば夏の着物では黑地や紺地へ綠靑の樣な色が、先づ棒縞になつて出て來まして、其次には白綠の色に變つて來ました。然るに大正の初頃には、段々とそれが薄く變つて來まして、最後にはもう變りやうがないから、とう〳〵白に移つて來ました。其後夏物のみならず、冬物にもそれが及ぼされて來まして、丁度大正九年頃、私が東京から時々圖案教授の爲桐生高等工業學校に通つて居ります時に、足利であつたと思ふのですが、どや〳〵

と汽車の中に乘り込んだ人達が、お互の着物を見合つてどうも丸で夏物見たやうぢやないかと、口々に言つて居つたのを、今でも覺えてゐます。是は多分機屋或は問屋の人達であると見たのですが、其時分から冬物にも白を盛んに使ひ出したのであります。卽ち單に濃い方の色ばかりを使つて居りましては、深さが表はされない、詰りハイライトを付けることが出來なかつたが、白を用ひたために、非常に色が活きて來て、さうして深味も付いて來た。其結果最近益々盛に白が使はれて居る。又暈し模樣が流行しまして、是も矢張深味を必要とした結果であつて、今日は又地紋を用ひ、其上に模樣を付ける樣にもなつて來ましたが、之も深味を要求せる結果である。ショールなどでも、天鵞絨の黑い所の毛を拔いて地を見せ、又燒いたり押付けたりして、深さを見せる事をやつて居る。一方には又或る所へ極く黑い色を所々に使つて、さうして影を現はすと云ふ事も、盛に行はれて來たが、何れも皆深味を付けると云ふ計畫に過ぎないと思ふのであります。

五　現代流行規準の三「遠目を利かせること」

又最近は非常に交通が頻繁になりまして繁華な都市では自動車、電車などの往來が烈しくなりました。銀座から須田町邊りを歩きますと、迚ても命懸けで通らなくてはならぬやうな有樣、非常に忙しくなつて來た。室内に於きましても、事務などの非常に繁忙な所になりますと、眼の廻る程忙しいと云ふやうな世の中になつた。然してこの傾向が、段々と都から地方に及んで行くやうでありますが、さう云ふ賑かな所、又繁忙な所になりますと細かな柄とか、或は餘り判然しないやうな色目とか云ふやうなものは一向引立ちませぬ。遠くからは男だか女だか分らぬ位でありして、詰り手に取つて見なければ、能く分らぬやうな、所謂四疊半式の柄と云ふものは、役に立たぬ、遠くから見て判然する、非常な繁雜の間にも色を認め得ると云ふやうな、極くキツパリした色を好むことが自然になつて來た。そこで複雜な模樣はいかない、極く單調でなくてはならぬと云ふ聲が、四五年來高まつて來た。或は暗い色はいかない、極く色を明くしなければならぬと云ふやうなことになつて來た。更紗か友仙の雨コートと一色コートを來た二人の女が、遠くを歩いて居るのを見るとすると、更紗の方は殆んど見えないで必ず一色の方が引立ちます。最近一色のコートが流行つて、然もそれが明るくなつて來て、三四年特に明るい色目になつたのは、當然であります。年增の人が若い時に着た着物を引張り出して見ましても、今日はまだそれでも地味だと云ふやうな位になつて來て、紬のやうなものが盛んに流行出して來たのも、是も非常にキツパリした模樣を好むからであります。

大體に日本は山の多い所でありますから、古くから遠目に付ては餘り考へて居なかつた。支那などは其最發達した處は所謂中原で、何處へ往つても山がない所が多いからして、遠望を良くする事に付ては、建築にしろ、服裝にしろ古くから能く考へられて居りまする。日本はその點において餘りに考へて居らなかつたが、最近の樣にこう世の中が忙しくなつては、どうしても遠目の利くこと、判然すると云ふやうなことを考へなければなら

ぬことになつて來て居ります。それに近年御大禮或は御慶事と云ふやうな國民的喜び事が多くあり、又現在は非常に不景氣とは云ひながら、一般の人は到底駄目だと云ふて悄氣込んでは居ない、大に活動しやうと云ふやうな氣分が漲つて居る。御大禮、御慶事、斯う云ふ慶ぶべき事と云ふものは、詰り陰欝な氣分ではない。即ち明るい氣分である、愉快な氣分である、悄氣込んでしまつたのは、陰欝でありますけれども、是から活動しやうと云ふ氣分は明るい氣分である。故に柄や色などが、極く明くなくてはならぬと云ふことが、其邊にあると思ふのであります。

遠目が利くやうにしますには、余り色々な色を使つては、暗くなつてしまうのでありますから、大概は同種の色の配合を用ひるか、或は極く單純な色を使ふて、僅かにそれに深味を付ける爲に、白又は黒等を使ふと云ふやうなことが宜いと思ひます。或は色々な色はあるが、それを遠くから見ると、總體に明く見えて、一色に見えると云ふやうな計畫にした方が、模樣にしては成功すると思ふのであります。

六　現代流行規準の四「東洋味の豐かなること」

又此頃は支那料理などが、大分流行つて來て居ります。東京などでも、支那料理店が殖えたやうである。子供等でも、支那服を着た者がある。然し現在着て居る支那服は、余りにソツクリ支那服でありますから、日本人としては、余り向かないかと思ふのですが、兎に角今迄なんでも洋食でなくてはなどゝ云ふて居つた代りに、そろ〳〵支那料理を食べる氣分が出て來た。大きな西洋風の建築が、あの廻りにある所へ持つて來て、單り東洋風を帶びて居る。其爲と云ふわけでもなかろふが、大分最近出來た大建築等にも色々東洋味が帶びて來ました。外國へ繪の修業其他工藝の修業に行つた者が、歐羅巴で盛んに東洋研究をやつて居るので、驚いて歸つて來る有樣である。兎も角、從來西洋々々と言ふて來たものに飽きが來て、どうも西洋其儘ではいかぬから、少し東洋味を帶ばしてくれ、もつと純日本の風はな

いかと云ふやうな聲が所々で聞え、單に模樣とか、柄とか云ふものゝみでなく、總てのことにさう云ふ氣運になつて來て居るやうに思ふのです。御承知の通り日本の模樣は、多くは何處からか流れて來た者が多い。支那から來たか、印度から來たか、又は歐羅巴から來たか、多くは他所から來て居ります。それが例へば隋唐の模樣が、藤原に依つて本當に日本化された。又鎌倉邊りに來た宋風のものが、足利の邊りになりますと、其氣分で純日本風が出來て來る。足利の末に這入つた所の南蠻其他和蘭邊りから來た種々な風が、德川の初期には日本化されて來た、と云ふ風に、兎に角日本に這入りますと、何時か知らん日本化することになつて來て居りまして、中々偉い國民ではあるのですから、明治大正に這入つた所の、西洋の風と云ふものは、今日昭和になつて、純日本を生み出すべき丁度其時代になつて來て居ると思ふのであります。

七　現代流行規準の五「ザングリした氣分を持つこと」

又東洋人は非常に雅致を尊ぶ。外國人も無論相當に雅致は好みますが、其氣持には色々又違ふ所がある。兎に角東洋人としましては、極く光つた品物よりも、澁い品物を好く。餘りに平らな、几帳面なものよりも、少しザングリしたものを好むと云ふやうな國民である。金ピカなものよりも、艶消しを好むと云ふやうな譯で、詰り繪なども極彩色よりも、寧ろ墨繪を尊ぶ。又陶器なども金襴繪の綺麗なものよりか、寧ろ赤繪南京と云ふやうなものを好む風があります。是等が總て着物の上に變化を及ぼし、今日地風の變化と云ふ研究が非常に盛んになつて參りまして、男の羽織又は袴であると云ふやうなものは、最近には變つたものが出來、片側帶などでも大分變つた、所謂ザングリした所の氣分のものが出來て來た。卽ち羽二重のやうなツル〳〵したものよりか、縮緬が喜ばれると同じく、木綿物などでも、極く強撚糸を使つて、ザラツトした氣持を尊ぶと云ふ風になつて來ました。兎に角、單に平らなものでなくて、幾らか凸凹があると云ふやうなもの、深味と關係がありますが、兎に角、手觸りがザラツトしたものを、喜ぶやうに思ふのであります。

八　現代流行規準の六「氣品を持たせること」

さう云ふ風に、總て流行の變遷は、國民の思想と相關係する所が、非常に多いやうに思ふのであります。併し只今申述べました明くするとか、或は華かにするとか、或は物を大柄にするとか云ふやうな必要があつて、さう云ふ物がどし〳〵出來ると云ふと、どうかすると下品になり易い。そこで私が最後に注意したいのは、品物を拵へるに極く上品にしなければならぬ、氣品を高くしなくてはならぬと云ふことであります。如何に判然して居つても、如何に明くして居つても、それが上品でなく、單に遠くから目立ちさへすれば宜いと云ふのでは宜くないのであります。其處に品位を保たせると云ふことが、此服飾を製作し、扱ふ者に於て最も注意すべきことゝ思ふのであります。

九　流行につき六つの標語

さう云ふ風に、以上述べましたことを、先づ流行の規準として宜いと思ふのでありますが、即ち之を摘んで云ふと、極く柔らか味を帶ばせなくてはならぬ、或は深味を持たせなければならぬ、或は遠目の利くやうにしなければならぬ、或は東洋味を帶ばせねばならぬ、極くザングリした氣分を持たせなければならぬ、最後に品物を極く氣品を高く作らなければならぬ、標語をモット簡單にして柔か味、深味、遠目、東洋味、ザングリ、氣品と此六ツ覺えて居れば良い。是等を規準として行つたならば、品物の大きな波を捉へて、品物を善くして行くと云ふことには、先づ間違ひのないものが、出來ることゝ思ふのであります。又それを需要する方の側から、即ち買ふ方の側から言つても、今述べたやうなことを考へて買ふたならば、間違ひのない所の品物を得ることゝ思ふのであります。

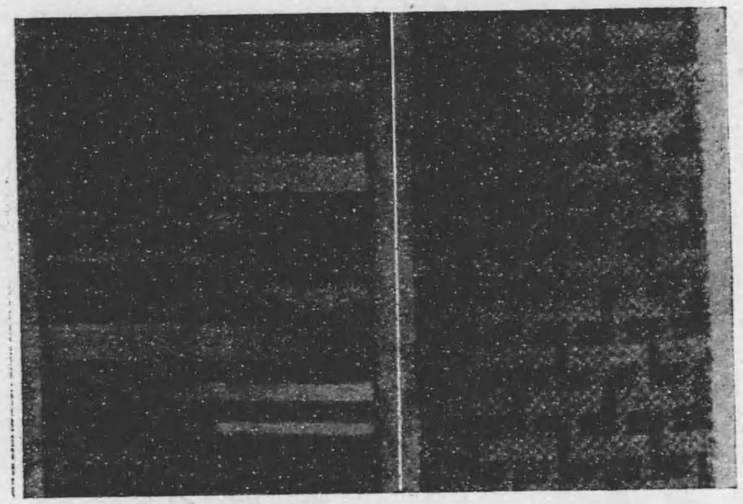
一〇　各地製品の批判

流行の規準に付いては、以上述べたやうなことであるが、私はこれと結付けて內地に於

ける各優秀なる產地の製品に付いて、其批判と、如何にしてその產地が優秀なる製品を得るに至つたかと云ふことを、少し述べさして戴きたい。先づ內地物として獨特の製品、詰り殆んど他の追從を許さない、と云ふやうなものを少し選んで申上げたいと思ふのであります。

(イ) 越後の明石縮 第一に越後十日町の明石であります。近年盛んに賣出されて居る夏物、私は何時も此明石の柄を見ますと、どうしてあゝ云ふ越後の山奧にあつて、斯う云ふ良い柄が出來るか、都へ持出して來て、堂々と他を優越し、京都などで出來たのよりも、寧ろ此地の方が味が宜いと云ふやうな評判をとつて居る。而も其拵へる時は、多くは冬である。圖案家が夏物を冬考案することは、冬の模樣や、何かを夏考案するのと同じく、非常に苦しい譯です。所が寒い國で、而もあゝ云ふ邊鄙な處であるに拘らず、都へ押出して夏物として、迚ても宜い品物を出すのは、一體どう云ふ譯であるか。何時も感服するのですが、是は私の考では、土地柄、詰り濕度の關係もあるさうですが、兎に角、あの織物の

有つ少しネツトリとしたやうな味、余り鯱子張らないで、且つ唯ベタ〳〵したやうな味でもない。此味と云ふものが、あの土地に能く適して居ると云ふことも、一つの原因でありませうが、品物が盛んに出來ると、隨つて買手が其處に集つて來る、さうして品物が賣れる。さうすると又向ふからも、都會へ出て來る。色々な柄行きを聞く、色合はどうだ。柄はどうだと云ふやうに、御互ひに色々なことを研究する。又此方から行つた人も向ふへ教へる。習ふと云ふやうなことになつて、圖案家も這入つて行けば、問屋も盛んに這入つて行くと云ふ風に、あれだけ邊鄙な處であつても、都會又は需要地との聯絡が取れて、非常に近くなつて居ります。さう云ふことで、此明石に對する新らしい圖案が能く採用され、又それを織ることに於ても、非常に能く研究が行き屆いて居りますから、是だけの立派な品物を、年々出すやうになつたことゝ思ふのであります。卽ち自然が生み出したとは言へ其發達の原因はと云ふと、需要供給の聯絡が非常に能く付いて居る。隨つて良い圖案を能く採用する所の眼を養成して居る。又其圖案を活かす所の技術を持つて居ると云ふことに



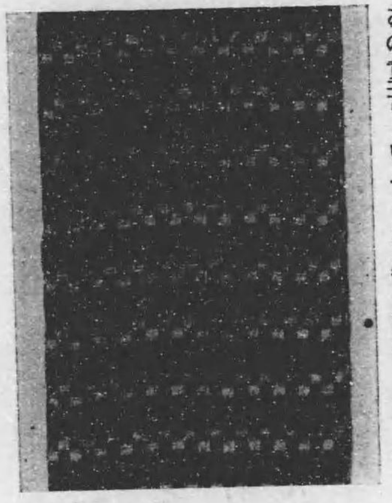
第一圖　伊勢崎銘仙（左）大絣（右）珍絣

歸すると思ひます。

（ロ）伊勢崎銘仙　次には伊勢崎であります。伊勢崎は先づ銘仙を擧げる。銘仙の中でも、大柄の絣が私は最も特色あるものと思ふ。又解しもやります。何れも皆優秀な製品を拵へる、唯解しは外に足利などで造る物に柄などでは良い物がありますが、先づ此絣に於ては、兎に角獨特のものと思ふのです。古くからよく伊勢崎は宣傳のうまい所だと云ふことを言ひます。それも尤もでありましやう。組合の組織が非常に良くなつて居りまして、殊に專門に銘仙を拵へる、餘り色々な物を拵へ

ない。即ち製作する人の頭が、總體一樣なことに研究を進めて居る。此方の人は帶をやる、此方の人は木綿物をやると云ふやうなことになつて居ると、どうも調子が揃はない。組合などでもやり惡いけれども、此銘仙絣とか、解しとか云ふ物を、一樣に製作することになりますれば、組合組織も非常に順調に行く譯になる。それに非常に宣傳に努めて居ることは、誰も認めて居る通りでありますから、非常の評判がよく、大量に品物も出來る。大量に出來ると云ふと、圖案家も東京或は京都からも出て行く、又向ふの人も東京に出て來て、問屋との聯絡が能く取れる、先づ越後よりも東京には極く近い所であるから、關東の氣分は能く取入れらるゝ譯になる。詰り組合組織の强固、宣傳、需要地との聯絡、又圖案を能く扱ふと云ふやうなことが、元になつて居るやうに思ふ。又十日町の製品と伊勢崎の製品とは、何れも明るい感じを持つて居る。さうして遠目の利くやうな物になつて居ります。時代の要求を能く考へて、品物が製作されて居る。大體に東北地方は氣分が陰鬱であるから、斯う云ふ明い物は造り得さうに思はぬ、寧ろ南の方は、ずつと明いから、九州

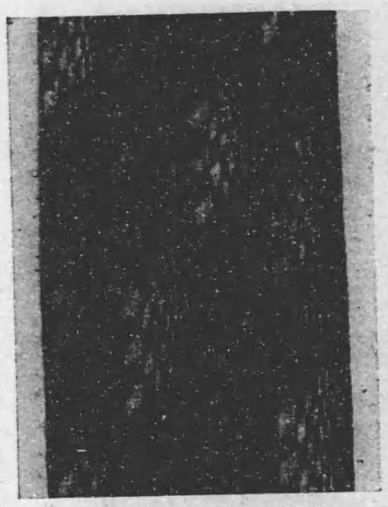
邊りの品物が明い物が出來さうでありますけれども、反對に九州は暗い物が出來ると云ふことに、現在はなつて居るのであります。是はツマリ其土地の者は、却つてそれに慣れて、反對の者を要求するとでも云ふべきか、何か原因があると思ふ。關西などでも、京都では、古くから良い物を造る所でありまするが、色目がどうも比較的明い氣分がないやうに私は思ふ。固より落付は良いですが、余り落付き過ぎて居ると言はうか、京都獨特の、あの重苦しいやうな感じがありまして、現代的な輕い感じ、明い感じと云ふやうなことには、少し緣遠いやうに思ひます。比較的に關東に出來る所の十日町、伊勢崎の製品は、非常に現代に副ふた物と推奬するのであります。



第二圖　豐田紬

(ハ)　豐田紬　第三には豐田紬を推します。結城に近い所で出來るので、結城の模造と云

つて宜いやうな物であります。所が古くから名高い結城の方が、却つて最近には落ちまして、豐田紬が非常な繁昌をして居ります。何處に原因があるか、是は申す迄もなく、結城は皆家內工業で、最も舊式な手機でやりますから、なか〳〵大量には出來ぬ。豐田の方は力織機などでやりますから、大量にやれる。そして値段が非常に安く出來、而も一寸感じは似た物である。乃ち所謂民衆的と言ひますか、一般向きになつて居る。是が第一の非常な原因、もう一つは値段が安いがために、少々大膽な柄を織出して賣れないでも、どうせ大した損はないと云ふ譯で、それで思ひ切つた物を造ることが出來る。本場の結城などでは、若しや間違つて賣れない時には、大變なことになる。例へば現在中形が、能く出ますが、其內本中形になりますと、柄などを能く考へて拵へなければならないけれど、手拭浴



第三圖　結城紬本場

衣地になりますと、どんな柄でも大膽にやつてしまふ。値段が安くて、どうせやり損なつても、大した損はないと云ふので、ドン〳〵造るから、手拭中形の最近の進歩は非常なものです。それと同じ意味で、此豐田紬が柄行きに於て、最近大進歩を致し、隨つて多くの人が之を好む。又先に言ふ所の、ザングリした氣分があつて、一寸味の宜いところがある

第四圖　桐生レーヨン片側帶地

此點は到底他の及ばない所であります。又是も伊勢崎と同じやうに都會にも近いし、さうして始終需要地との聯絡が能く取れて居る。

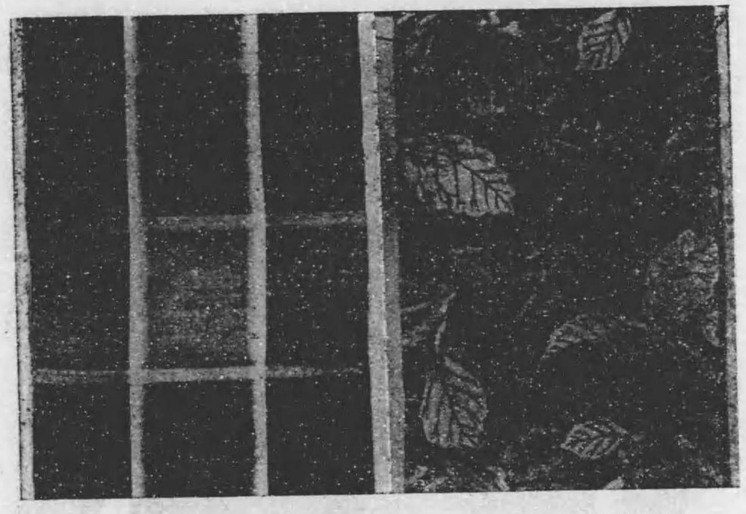
(二) 桐生の人絹帶　次に桐生の人絹、最近謂ふ所のレーヨンの帶であります。桐生からレーヨンの帶を引張り出して來ると云ふことは、桐生の人としては、聊か不滿足かも知れぬ。まだもつと良い物がある。御召があると仰しやるかも知れませぬ。けれども獨特と云ふ物、乃ち到底他の追從を許さぬと云ふ物を持つて來る時には、私は此人絹を除外するわけにはゆかぬのであります。是は又非常な進歩でありまして、京都なども、此人絹の片側帶に對しては、大分壓倒されて居る。單調で、安くて、而も柄行きなどが非常に宜い。詰り桐生は帶の製作に於ては、古い經驗を持つて居りますから、人絹の扱ひ方を先に研究した。さうして人絹が帶に對して、最も都合が好いと云ふ研究が大に進み、且つ應用もされた結果、斯樣になつたと思ふのであります。

(ホ) 所澤の木綿物　其次に埼玉の木綿織物を優秀と認めます。木綿織物であつて、殆ど木綿とは思へない位、又柄行きに於きましても、地風に於きまして、獨特の技術を持つて居ります。多くは所澤などが、最近最も良い製品を出すのでありますが、是は又非常な進

歩、極く最近の進歩であります。元々埼玉縣は木綿物、殊に夏物に於きましては、優秀な技術を持つて居るのでありますが、最近の所澤邊りの發展、柄行きに於ての發展と云ふものは大なるものであります。所澤には湖月會と云ふ會があつて、絶えず都と聯絡を取つて優秀な物を出して居る。是は詰り都會に近い爲に、能く都會との聯絡が取れて行く點と、又其土地の人が熱心である點と結び付いて、柄と地風に、柔らか味と、深味のある物が出來るやうになつたものと思ふのであります。

(へ) 八王子の絹織物 それから、近い所の八王子、是は羽織、袴が最も特色である。是は又全國何れの地も八王子に及ばぬと言ふてよい。殊に袴においての最近の進歩は著しいものである。又八王子は最近中柄にも成功して、解しのやうな物、絹セル其他明石のやうな物を出す。從來男物であつたものが、婦人物を多く造るやうになり、又良い物が出來るやうになりました。最近試驗所も出來て、又都に近い爲に非常に能く聯絡が取れ、土地の人も熱心であるために成功したものと思ふのですが、唯伊勢崎や十日町のやうに、極く專門

第五圖　八王子無双羽織地



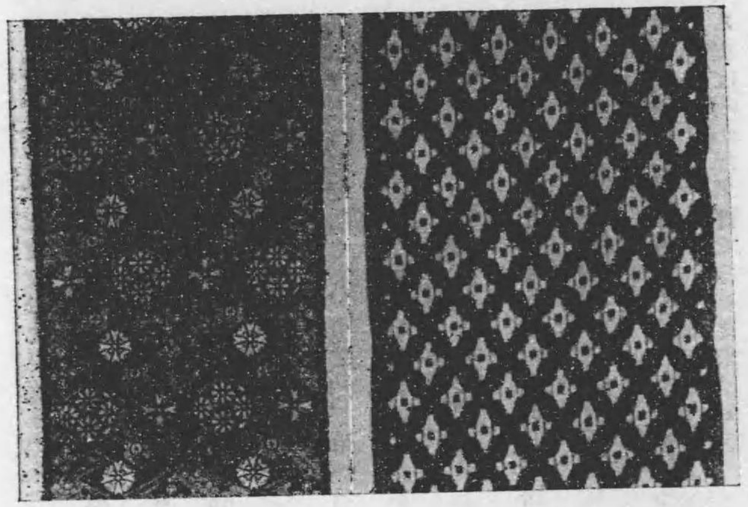
第六圖　青梅の夜具地　八王子模様銘仙

に行かぬ。袴をやつて見たり、帶をやつて見たり、又外に明石をやつて見、中柄をやると云ふやうに、色々な物をやるのですが、それが良いか惡いか、都會に近く聯絡のよく執れる處だから、それも良いでしやうが、八王子の將來としては、唯其點を最も注意すべきことゝ思ふ。最近織物に組織を重んじ、地風を良くする必要甚大なる現代に當り、多年男物の地味な地風の技術にて、立派な腕前を持つて居らるゝ八王子の機業家諸君が、充分の腕を振はるゝ最好の機會來れるを祝福し、且つ其自重を祈る次第であります。

(ト)　青梅の夜具地　もう一つ近い所で青梅があります。青梅は夜具地であります、是も獨特のものであります。從來夜具地などと云ふ物は、余り圖案などを使はなかつた。又流行などに余り關係をしなかつたものでありましたが、最近は中々圖案を能く使ひ、都會との聯絡を取つて、非常に優秀な物が出來て居ります。是も全國中殆ど及ぶ所がない。遠州邊りで、同じやうな品物が出來ますけれども、到底此青梅には及ばない。是は一つには、染料が此土地に極く特色のものがあります。それで最初能く發達したのでありますが、詰り圖案を能く應用し、又能く都との聯絡を取つた關係があると思ふのであります。斯樣に述べて來ますと云ふと、最近には關東の方が非常に進んで來て居るのに對し、關西は餘り從來より進んで居ないやうに思ふのであります。尤も京都は染物と紋織物は獨特のものでありますが、是は既に定評があつて、最近特にどう進んだと云ふほどのことはない。又大阪の友禪モスリンのやうなものもありますが、是等のものも、以前非常に立派な成績でありましたが、最近進歩したと云ふ處は見へぬ。產額などに於ては寧ろ減つて來たと思ふ。

是には色々な原因があります。他にそれに適當するやうな種々な品物が出來た事や、或は生地が弱いとか、又は虫が付くと云ふやうな點で、落ちたやうに思ふのであります。

(チ) 久留米絣 それから、九州へ行きまして久留米の絣、是も古くから獨特の物でありましたが、子供の洋服が非常に盛んになつて、餘り用ひられなくなつた。それかと言つて女物にもう少し派手な物をやつて見たところで、木綿絣の女物は若い人は餘り着ない。子供のコートでも拵へて見たらどうか、コートや何かにしても、まだ他に良い物があると云ふやうな譯で、中々苦しい地位にあるやうに思ふのであります。最近細糸を使つて餘程地風なども改革し、强撚糸を使つて、時々立派な物を造つて來て居るやうでありますが、全く從來の物と變る方が宜いか、或は從來の絣をもう少し良くして行く方が宜いかと云ふやうな點は、餘程問題とすべきであつて、今後の研究を要することであるが、絣には古くから慣れて居るのだから、新しい者をやるならば、强撚糸でも使つて所澤風の物に、其獨特の絣を利用する事も、一案かと私は思ふのであります。



久留米絣　大島紬

第七圖

(リ) 大島紬 まだ〳〵大島の紬もありますが、是は已に古くから定評があります。あれは土地柄としまして、あゝ云ふ味とあの色に於ては、到底他の及ばない所を持つて居る。此點に於て唯活きて居るだけで、柄行きなどに於ては、稍行詰つたやうな感じもありまして、もう少し奮勵を要すると思ふのであります。

一一　優秀なる機業地たるべき特質

之を要するに、機業地としましては、或る特色を必ず持つ、さうして專門に進んで

行く事、さうすれば大量に品物が出來て來る。圖案なども盛んに使ひこなせるから、良い圖案が諸方から集つて來る。又隨つて都會との聯絡も能く付いて來て、益々進んで行く。又製作者側から言つても、今日は圖案を能く活かして使ふ事が出來る樣になつた。即ち從來では、良い圖案があつても、それを品物にすることが中々難しかつた、けれども今は餘程技巧が進んで、どんな圖案でも、先づ品物に造り得ぬ者はないやうになつた。又圖案と云ふほどの者でなくも、兎に角、拵へる前に、紙の上で先づ善し惡しを試めして、それから機の上に戴せるやうになつて居ります。又もう一つは織物行政機關と言ひますか、組合組織の宜いものが發達し、殊に組合にしても、民衆行政とでも言ひますか、モット民衆と近い關係を持つた色々な會が發達して居る。綾羽會、蓮會、湖月會、等織物の主要產地には、總て色々と專門々々に又は對デパート、對問屋に種々な會がありまして、其會と需要地との聯絡が、始終能く取れて來て居る。斯う云ふ風になつた處が、最もよく發達して來る事は明かな事實であります。

一二　輸出織物製造の必要

私は斯う考へて來ますと、何時も最後には思ふのですが、乃ち我が內地の機業家が、糸の一本の性質とか、或は色とか云ふやうなことに注いで居る、心配や、苦心や、骨折や、研究やなどを、一歩進めて輸出の方面に及ぼしたならば、非常なものである。日本人は、大體に於て根氣が足らないと言はれて居りますが、まだ內地の製品に於て、斯樣に立派な物を造る所を見ますと、根氣は中々あると思ふ。唯輸出物になりますと、どう云ふ風にしたら宜いか、其根氣の入れ所を知らないのである。即ち日本から印度、或は南洋とか云ふ所へ若し輸出するとすれば、其輸出先の狀況がどうかと云ふことが少しも分らない。聯絡が取れて居ない爲に、何時も甚だしく進まぬと云ふ結果になる樣で、貿易不振の原因を何の彼のと云ふ必要は他にない、モウ今日は唯此一點であると思ふ。乃ち內地の製品が其需要地との聯絡を能く取つて、さうして立派に品物が捌けて行くと同じやうに、其力を輸出

向きの方に及ぼして、聯絡を取る所の何かの機關が其處に欲しいものである。何時も內地向きの機業家の努力を考へる時には、最後にそれを思ひ起すのであります。最近廣幅織物の宣傳等を盛んにやられて居りますが、是なども先づ一案として、甚だ宜いことである。詰り內地で需要する物を、其儘輸出として持つて行くと云ふことでありますから、大變結構なことでありまして、需要する者も、又製作する者も、奮つて大概の故障は排しても協賛せねばならぬことゝ思ふのでありますが、もつと積極的に、海外需要地の狀況を能く調査する機關が出來て、此貿易の振興が行はれるならば非常に仕合せと思ひます。

附錄

全國の織物及染物の分布

帝國工藝會調査部調査

最近の統計に依れば、我國に於ける織物及染物の生產額は一ヶ年十四億五千四百五十八萬圓（外に染物工賃一億圓）と云ふ驚くべき數字を示してゐる。その內で綿織物が約半額の七億二千五百三十八萬圓で第一位を占め、絹織物及絹綿交織物が四億六千九百四十萬圓で第二位、毛織物及毛交織物が二億三千八百七十萬圓で第三位、麻織物及麻交織物が二千百萬圓で第四位と云ふことになつてゐる。今これを各府縣に分けて、その分布の有樣を極めて簡單に一瞥を試みよう。

北海道　織物　一、一九九千圓　染物　二四八千圓

札幌で出來る麻織物が產額の殆んど全部である。

東京府　織物　九二、七三一千圓　染物　九、九五一千圓

東京市內外に生產する毛織物が半額以上を占め次に絹織物及絹交織物となり、綿織物と麻織とは順次之れに次ぐ。昔から著名な產地としては八王子がある。一口に八王子織物と云つて居るが、

製品の種類の多いことは驚くべきものがある。其他に綿織物の青梅縞がある。

京都府 織物 一〇〇、九七八千圓　染物 二一、七五一千圓

絹織物が一番多い。京都市の西陣織・丹後の縮緬等で、殆んど全産額を占めてゐる。京都市の友禪染は夙に世に知られてゐる。

大阪府 織物 一九三、〇三四千圓　染物 二七、四七七千圓

大工場で生産する廣幅綿織物が産額の筆頭である。昔から名高い河内木綿も尙ほ盛んに製織されて居る。是等綿織物の大部分は支那方面への輸出に向けられる。

神奈川縣 織物 四、二四〇千圓　染物 一、六三三千圓

縣下津久井郡地方から、絹織物や綿織物などが織出される。

兵庫縣 織物 一〇二、二五五千圓　染物 一、一九四千圓

毛織物の産額が半額以上を占めてゐる。これは日本毛織會社があるからである。次には綿織物であるが、これも大工場生産の廣幅物が多い。昔からのものでは、明石の帆木綿が知られてゐる。

長崎縣 織物 一、一九四千圓　染物 一〇五千圓

産額の大部分は綿織物であるが、特に世に知られたものはない。

新潟縣 織物 三〇、三三五千圓　染物 九三二千圓

絹織物は總額の六割以上を占め從つて名産地に富んでゐる。羽二重及紹の五泉と加茂・明石の十日町、節織の栃尾等は既に定評のあるものである。綿織物としては、長岡の綿結城を初め加茂縞、亀田縞、小須戸夜具地、小千谷の擬麻上布等が名高い。

埼玉縣 織物 二五、七四六千圓　染物 一、二六七千圓

絹織物と綿織物と産額伯仲す。秩父絹、所澤絣、川越の青縞など世は著はれてゐる。

群馬縣 織物 六四、一六七千圓　染物 一、二八六千圓

産額の大部分を占むるものは、絹織物と絹綿交織物とである。桐生織物は桐生を中心として、其附近の町村から織出される內地向及外國向の絹物及その交織物で、澤山の種類がある。伊勢崎織物は銘仙に於て著はれ、邑樂織物は紡績絣、白絣、綿縮、又高崎織物は主に裏地用の綿織物が多い。

千葉縣 織物 一、八七一千圓　染物 二七一千圓

主として綿織物、銚子町の縮はその著名なものである。

茨城縣 織物 二、一九四千圓　染物 二八八千圓

主に絹織物で、結城紬、豐田紬は共に本縣の特産物である。

栃木縣 織物 二六、三五六千圓　染物 一、五二〇千圓

有名なのは足利織物で、絹織物、絹綿交織物、綿織物に亘り、製品の種類は頗る多數である。內

地向の外輸出向のものも澤山ある。佐野織物は佐野町及その附近から織出され、種類も足利織物同様なか〳〵多い。

奈良縣　織物　一一、七二三千圓　染物　三五七千圓

主として綿織物で、大和木綿、奈良晒の名、昔から知られてゐる。

三重縣　織物　三二、〇四七千圓　染物　四四三千圓

綿織物が主で、伊勢木綿、松阪木綿として著はれてゐる。

愛知縣　織物　二七三、八七六千圓　染物　七、一五八千圓

綿織物が産額の大部分を占めてゐる。尾張方面では主として縞物を産し、三河方面では古來三河木綿、知多木綿、岡木綿として知られてゐる通り重に白木綿を織出して居る。絹綿交織物も各所で織出され頗る精巧なものがある。絹織物は古知野町の紋織類、名古屋市の羽二重其他で、輸出向のものも少なくない。其他毛織物の製造も非常に發達し、殊に着尺用のセルヂには、なか〳〵よいものが出來る。

靜岡縣　織物　五五、四七〇千圓　染物　四、五五一千圓

重に綿織物で濱名郡内で織出される遠州縞及濱松市の中形染と捺染絣とが有名である。

山梨縣　織物　一六、〇七五千圓　染物　二六七千圓

甲斐絹、郡内織、共に昔からの名産である。

滋賀縣　織物　一九、八五三千圓　染物　二九一千圓

長濱縮緬は本縣の特産、その他麻織物も近江晒の名によつて古來世に知られてゐる。

岐阜縣　織物　四七、三六〇千圓　染物　一四六千圓

岐阜市と稻葉郡で出來る岐阜縮緬其他の絹織物は、産額の順位から言へば、第二番目で、第一位は着尺物の毛織物卽セルヂ類で占めてゐる。綿織物は所謂美濃縞で全國に販路を有つてゐる。

長野縣　織物　一、七六六千圓　染物　九八四千圓

絹織物の産額が一番多い。有名な上田紬は今は殆んど廢れてゐる。近來は紋織、縮緬、斜子、紬、平絹など種々のものが出來るが、特色のあるものは少ない。

宮城縣　織物　一、七三五千圓　染物　九二二千圓

所謂仙臺平は本縣の名産である。産額は綿織物の方が遙に多いが、特色のあるものはない。

福島縣　織物　九、七八五千圓　染物　三五七千圓

縣下各郡から織出されたる羽二重は、輸出品として相當永い經歷を有つてゐる。

岩手縣　織物　一九一千圓　染物　一〇六千圓

南部紬、南部縮緬など、本縣特産物の一に算へられてゐるが、産額は少ない。

青森縣　織物　三五五千圓　染物　八一千圓

縣內消費のものが多い。

山形縣　織物　一三、一一三千圓　染物　一八五千圓

有名な米澤織と長井紬の他、外國向として羽二重なども織出される。

秋田縣　織物　五六五千圓　染物　二三四千圓

秋田八丈は昔は有名なものであつたが、今は唯名殘をとどめるのみだ。縣內消費の綿織物が產額の殆んと全部を占めてゐる。

福井縣　織物　八九、九六一千圓　染物　三六二千圓

主に絹織物で、殊に羽二重が多い。福井市を中心として、到る處で織出されてゐる。輸出向羽二重の產地としては、本縣が第一位を占めてゐる。其他綿織物、麻織物、毛織物等の產出もあるが、あまり特色のあるものはない。

石川縣　織物　五三、七六六千圓　染物　一、一六九千圓

本縣も羽二重の產地として知られてゐる。昔加賀絹と云つたものに、其起源を發してゐる。染物には加賀友禪、加賀兼房などの特色豐なものがある。

富山縣　織物　一三、〇一四千圓　染物　六七三千圓

絹織物として產額の多いのは、矢張り羽二重である。その他の輸出向のものも多少織出されてゐる。高岡市の新毛斯友禪は、價格が安いので一時非常な賣行きがあつたが、今はそれほどでない。

鳥取縣　織物　八二千圓　染物　三四千圓

綿織物に倉吉絣と云ふのがあるが、縣內及附近地方の需要に止まる。

島根縣　織物　一、四六五千圓　染物　八八千圓

綿織物として綿縮と廣瀨絣があるばかりである。

岡山縣　織物　三四、八三四千圓　染物　一八五千圓

綿織物が產額の主位を占めてゐる。製品の種類は雲齊布、小倉織等の特色あるものを始め、白木綿、着尺物など主として內地向のものである。

廣島縣　織物　一〇、九五三千圓　染物　六九七千圓

矢張り綿織物が多い。廣島市の山繭織、福山町附近の双子縞、網引の絣など知られてゐる。

山口縣　織物　三、五二八千圓　染物　六二千圓

綿織物として縞物、絣、縮等がある。

和歌山縣　織物　二八、五一五千圓　染物　九、一三一千圓

重なものは有名な綿ネルである。

徳島縣 織物 一〇、八四七千圓 染物 七七千圓

一時羽二重が織出されたことがあるが、今は殆んど廢つたやうだ。綿織物としては唯一の阿波縮がある。

香川縣 織物 一、二四五千圓 染物 九〇千圓

綿織物として保多織の外、特に擧げるほどの特産物がない。

愛媛縣 織物 三九、一八〇千圓 染物 三、五八三千圓

伊豫絣は相當廣い販路をもつてゐる。

高知縣 織物 一、〇七一千圓 染物 一五八千圓

特に著名なものがない。

福岡縣 織物 一九、一九九千圓 染物 五四〇千圓

九州で產する織物の四分の三は、本縣の占むる所で、織物業はなか〳〵盛んである。綿織物では久留米絣、久留米縞、甘木絣などがあるし、絹織物には博多織、絹綿交織物には小倉織がある。

大分縣 織物 二、四一五千圓 染物 一、二三三千圓

佐賀縣 織物 八〇九千圓 染物 六九千圓

熊本縣 織物 一、九四五千圓 染物 一六〇千圓

宮崎縣 織物 二四二千圓 染物 五二千圓

是等の諸縣には、特記すべきものがない。

鹿兒島縣 織物 九、六四七千圓 染物 八三千圓

絹織物としては大島で織出される絣紬が最も世に知られてゐる。綿織物では薩摩絣と薩摩縞が名高い。

沖繩縣 織物 一、五七二千圓 染物 三千圓

有名な琉球絣は本縣の特產物である。

以上

昭和四年六月十七日印刷
昭和四年六月二十日發行

クロモシーリズ
工藝常識講座

著物の流行と織物
定價金二十錢

著者　帝國工藝會
代表者　青木利三郎

發行兼印刷者　東京市神田區通神保町一
株式會社三省堂
代表者　神保周藏

印刷所　東京府荏原郡蒲田町
株式會社三省堂印刷部

發行所　東京市神田區通神保町
株式會社三省堂
大阪市南區順慶町通
株式會社三省堂大阪支店

工藝常識講座

●賣上本位の陳列裝飾（五六頁）
東京三越裝飾部 中里 研三

●●染織物の常識（五六頁）
桐生高等工業學校長 工學博士 西田博太郎

●●●最近の寫眞術（五八頁）
東京高等工業學校教授 鎌田彌壽治

●▼歐米美術工藝小觀（五六頁）
東京三越 豐泉 益三

▼電氣サイン及看板照明（五四頁）
東京電氣株式會社 田坂 素夫

▼●小住宅の洋風裝飾（五六頁）
東京三越家具部 山本秀太郎

▼●●飾窓の照明法（六二頁）
東京電氣株式會社技師 工學士 關重廣

▼●●●着物の流行と織物（五六頁）
東京高等工藝學校教授 鹿島英二

講師 ハ 内容 ハ 一清 ◆流 ◆新 三省堂發行
モロクシーズリー

見よ！スポーツ書

水泳（スポーツ叢書）
大毎記者 齋藤艶洋著
四六版・約三〇〇頁 カット寫眞版別丁豐富
定價一圓五十錢 送料八錢

競泳
前明大水泳部主將 和久山修二著
四六版・約一五〇頁 カット寫眞版別丁豐富
定價七十錢 送料六錢

オリンピックより歸りて（第九回オリンピック水泳報告）
日本水上競技聯盟編
四六版・約二五〇頁 カット別丁豐富
定價二圓 送料八錢

運動競技記錄集
時事新報記者 廣瀨謙三編
三六版・約一七〇頁
定價五十錢 送料四錢

日本陸上競技規則解說
全日本陸上競技聯盟編
四六版約一五〇頁
定價六十錢 送料六錢

昭和四年改正版 陸上競技規則
全日本陸上競技聯盟編
三六版・ポケット型 約一〇〇頁
定價三十錢 送料四錢

國際陸上競技規則
國際陸上競技聯盟編 全日本陸上競技聯盟譯
三六版・ポケット型 約一〇〇頁
定價三十錢 送料四錢

ラグビーの見方
前京大選手 奥村竹之助著
四六版・約三〇〇頁 カット寫眞版別丁豐富
定價八十錢 送料六錢

三省堂發行

323
347

辭書は三省堂!!

三省堂編輯所編・百餘大家執筆
三省堂英和大辭典
新四六版・裝幀旭紅色クロース・純金箔押箱入・二七〇〇頁・二六〇〇〇〇語・挿畫四〇〇〇箇・熟語一一〇〇〇〇語
(定價七圓)特價五圓五十錢 送料三十六錢

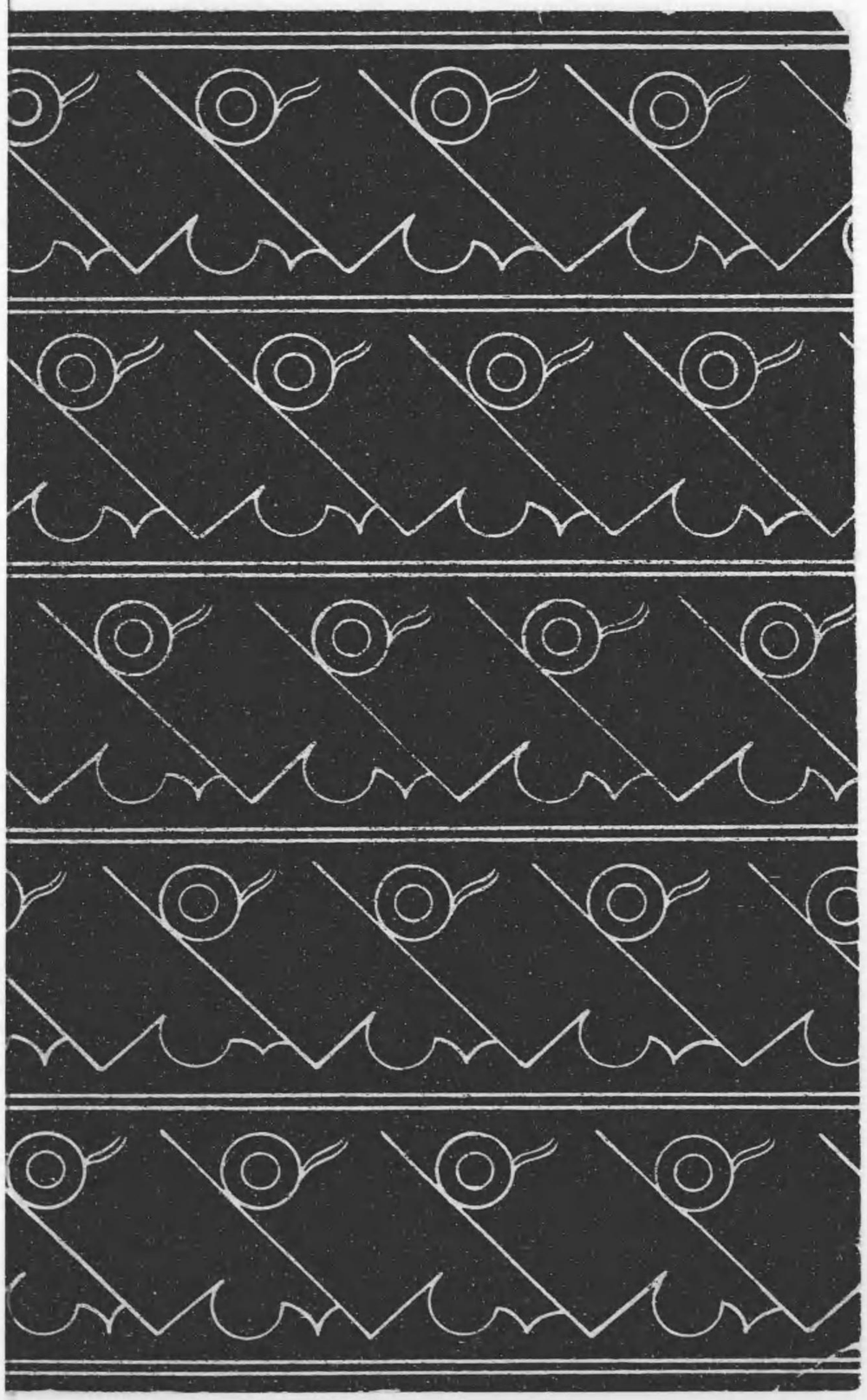
神田乃武・金澤久共編・三省堂增訂
增訂コンサイス英和辭典
皮製コンサイス型・七八〇頁
フォネチック發音符付キ
定價二圓四十錢 送料十四錢

石川林四郎編
コンサイス和英辭典
皮製コンサイス型・八三六頁
定價二圓五十錢 送料十四錢

三省堂編輯所編
ジェム英和・和英辭典
皮製ポケット型(セルロイド包裝)
背頁・染分け・一〇九六頁
定價二圓八十錢 送料十六錢

三省堂編輯所編
分冊ジェム英和辭典
皮製ポケット入・五四八頁
定價一圓三十錢 送料十四錢

三省堂編輯所編
明解英和辭典
コンサイス型・クロース製・六九二頁
假名發音符並ニフォネチック發音符入リ
定價一圓七十錢 送料十四錢

御愛用下さい・御註文は最寄り
書店で品の節は直接發行所迄

終